

ALPS出口サンプルタンク（フランジ型含む）における 信頼性向上対策

2023/4/27

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 信頼性向上対策

■ 経緯

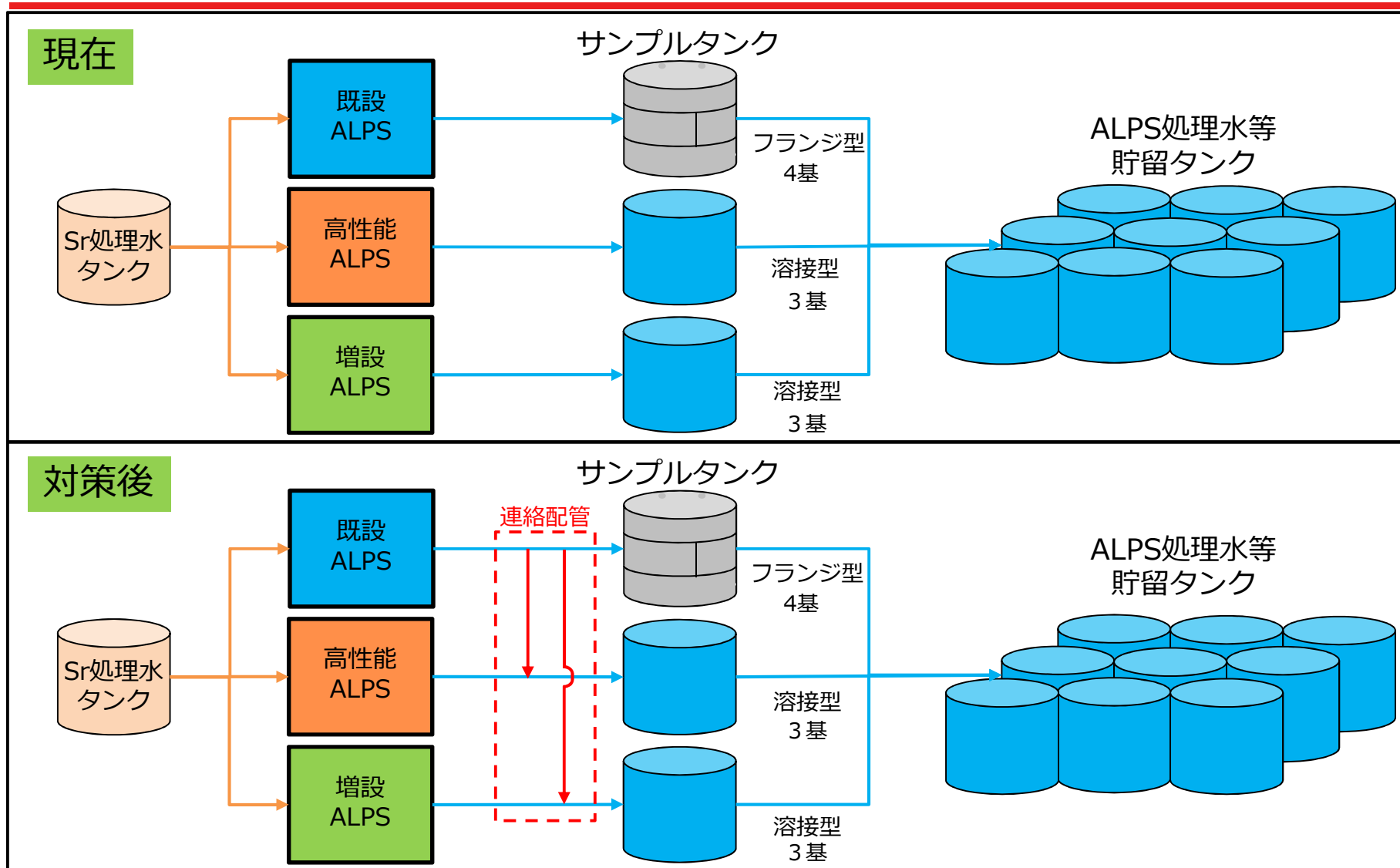
- 既設・増設・高性能の各ALPSで処理した水は、それぞれ専用のサンプルタンクに一時貯留する系統構成となっている。水処理を優先する観点から既設ALPSの稼働が必要となり、既設ALPSサンプルタンクについては、フランジ型のまま使用を継続している。
- そのため、既設ALPS運用における信頼性の向上（地震等の影響でサンプルタンクに不具合が生じた場合等の稼働確保）等を目的に、既設ALPSの処理水を増設・高性能ALPSのサンプルタンク（溶接型）に送ることができる『連絡配管』を設置する計画を進めていた。

■ 今回のご報告事項

- この度、設備設置および使用前検査が完了し、2023年4月18日より運用開始した事を報告する。
- なお、連絡配管運用開始後も各ALPSの運用を考慮し、フランジ型のサンプルタンクの使用を継続する。
- そのため、運用開始以降も、ALPS処理水貯留計画容量(137.3万m³)に変更はない。



2. 系統構成



- 溶接型サンプルタンクを優先使用した場合でも、既設・増設・高性能の3設備中、2設備は運用可能